

第4次三田市環境基本計画～重点プロジェクト～の実施状況について

① さんだSDGs推進プロジェクト

自然環境、生物多様性、資源循環、都市・生活環境など様々な地域課題の解決に向けては、一人ひとりが理解を深め「自分ごと」として日々の暮らしから見直していくことが大切です。

あらゆる手法・機会を効果的に活用し、環境問題を身近に感じ、行動へとつながる情報発信と学習を進めます。



【令和7年度の主な取組について】

《「自分ごと」として取り組むために》

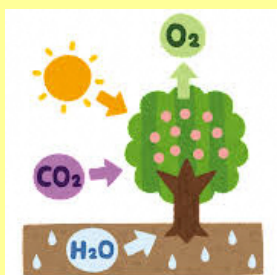
市民一人ひとりが、環境問題をはじめとした地域課題について理解を深め「自分ごと」として捉えて、行動に移すことが生活の一部となるよう、里山保全セミナーやこうみん未来塾などの開催を通じて実施した。

また、市職員向けに開催した職員研修会では、ワークショップ体験などを実施し、参加者が考え行動するきっかけづくりが実施できた。こうした内容を市広報により、公式LINEなどのSNSも活用して情報発信を行っているが、今後は、環境に関わる内容をさらに継続して、情報発信や情報提供などが必要である。

② さんだゼロカーボンシティ
始動プロジェクト

市は2050年ゼロカーボンシティへの挑戦を表明し、まずは2030年までにCO2排出量を49%削減することを目標に、多様な主体が可能なことから取り組んでいくことが必要です。

今後5年間を目標達成に向けての“初動期間”と位置付け、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けた着実な取り組みを進めます。



【令和7年度の主な取組について】

《CO2実質排出量（森林吸収量含む）》

・733,691t(三田市全体)-CO₂(直近:2022年度)

・基準年度(2013年度)比17.4%減

(目標:2030年度までに49%削減)

《一人ひとりの主体的な取組》

庁内関係課と共催して開催した熱中症対策セミナーでは、市だけでなく、事業者や市民活動団体等の協力を得て、ワークショップ形式で気候変動対策を自分のこととして受け止め、次の行動につなげる活動ができた。今後も継続して実施していく。

《市域の一事業所としての市の率先的な取組》

里山林整備等により発生する伐採木を薪、チップ等として資源循環する木と竹の駅プロジェクト実行委員会の設置に向けた協議や、庁内で3台のハイブリット型公用車の購入などを行った。

③ 共創まちづくり推進
プロジェクト

ごみや公害のない衛生的で快適な生活環境は、まちづくりの根幹を成すものです。

地域に暮らす全ての人々が相互に理解を深め、多様性を認め合いながらマナー・モラルを尊重することで快適な住環境を維持し、誰もが快適に暮らし続けられる魅力的なまちづくりを進めます。



【令和7年度の主な取り組みについて】

《ごみや公害のない快適な生活環境をめざして》

環境パトロールの実施や、通報等に基づく指導、企業敷地内の定期巡視確認などを行った。クリーンデーやクリーンサポーターなど、市民と協力して取り組むことは快適な生活環境づくりにとって重要であり、今後も継続していく。

《地域住民の相互理解、マナー・モラルの向上》

飼い主のいない猫(野良猫)へのTNR活動は年々増加しており、新規申請や大量実施事例もあった。また、市広報等で市民に周知啓発し、苦情案件に対して助言指導などを行っているが、TNR活動後の野良猫を継続的に飼いつづけるため、定期的な餌やりやトイレの始末などをどのような方法で継続していくかが課題である。この点は今後もボランティア等と継続して協議していく。